

話にあたったようである。

- ②7 フルベッキ Verbeck, Guido Herman Fridolin (一八三〇～一八九八) オランダ生まれ。アメリカのダッチ・リフォーム派の宣教師。一八五九年に来日、長崎で英語教育と宣教活動に従事する。明治二年新政府に迎えられ、大学南校の教頭、元学院顧問を歴任。同二年明治学院の創立に尽力、教授・理事会議長となった。

- ②8 モンソン学校 (Monson Academy)
 ②9 スプリングフィールド (Springfield) マサチューセッツ州西部の工業都市。モンソンの西二十キロにある。

治二十二年官を辞し、仏門に帰依して近江三井寺光浄院住持として余生を送った。

⑫ 普墺戦争 一八六六年六月から八月にかけ、ドイツ統一をめぐるプロシアとオーストリアの間に行った戦争。プロシアはわずか七週間でオーストリアを降伏させたので、「七週戦争」ともいう。

⑬ ベイカー街の蠟人形館（マダム・タツソー Madame Tussaud's）か。

⑭ ロンドン塔（Tower of London）であろう。

⑮ ウインザー城（Windsor Castle）

⑯ グリニッチ（Greenwich）天文台。

⑰ パラメント（Houses of Parliament）テムズ河に面する議事堂。

⑱ クリスタル・パレス（Crystal Palace）水晶宮。一八五一年の大博覧会の建物としてハイドパークに建てられ、後に近郊 Sydenham に移された。主として鉄骨ガラスばりの建築物で展覧会、音楽会等に使用していたが一九三六年に焼失した。

⑲ クイーンズタウン（Queenstown）、現在のコーヴ（Cohh）。アイルランド南部、コーク湾内のグレート島南岸にある港。

⑳ ロビネットの仲間の貿易商人か。詳細は不明。

㉑ ホーク、オルモントともに貿易商人と思われる、多少日本語が解せたらしい。ホリキリなる人物の仲間か。留学中の世話人。

㉒ 武田斐三郎（一八二七〜一八八〇） 大洲藩士。名は成章。緒方洪

庵、佐久間象山の洋学塾に学び、嘉永六年幕臣に登用されて長崎、蝦夷に派遣される。安政三年以降蝦夷地警備のため箱館に駐在。その間、洋式兵術の教育も行う。元治元年江戸開成所兵学教授、維新後は兵部権少丞、兵学寮教授、幼年学校長等を歴任し、明治初期の士官教育に尽した。

㉓ 木藤市助（？〜一八六七） 薩摩藩士。

触役所書役等を勤める一方、尊攘派として活躍。慶応元年、藩命で砲術修業のため江戸へ遊学する。慶応二年米国に留学。翌年留学先のモンソンで自殺。変名は芦原周平。

㉔ 伊勢佐太郎（一八四五〜一八七五） 熊本藩士。本名は横井左平太。横井小楠の甥。神戸海軍操練所を経て慶応元年長崎でフルベッキより語学を修得。慶応二年弟大平と共に米国へ留学し、ラトガス大学からアナポリス海軍兵学校に移るが明治四年退学し帰国。明治八年元老院権少書記官となったが、病のため同年死去する。

㉕ 沼川三郎（一八五〇〜一八七一） 熊本藩士。本名は横井大平。横井小楠の甥。慶応元年長崎語学校で英語を学び、翌年兄左平太と共に渡米。ラトガスのグラマースクールに学ぶが健康を害して明治二年に帰国。帰国語は藩立洋学校に外人教師を招くことに専念。藩の英学教育に貢献したが学校開設を見ずに死去する。

㉖ チャールス・ハモンド Charles Hammond 仁礼たちが学んだモンソン学校（Monson Academy）の校長。主として日本人留学生たちの世

十二月十九日、四十三歳で没する。

④ 江夏蘇助（一八三〇〜一八七〇） 薩摩藩士。名は榮方。仲左衛門、壯助と称す。変名久松。少壮剣を業九兼義に学び、小現流の使い手として知られた。産物方書役より拔擢されて御供御徒歩目付役となる。寺田屋事変ではその腕を買われて鎮撫使に選ばれた。元治元年七月の禁門の変に隊長として活躍、慶応二年三月米国に留学しモンソン学校に学ぶ。明治元年九月、仁礼景範と共に帰国する。帰朝後官を授けようとしたが応ぜず、明治三年四月雄志を抱きながら東京浜町の旅館で死亡した。年四十歳。

⑤ 種子島敬輔（一八四四〜？） 薩摩藩士。変名吉田伴七郎（彦磨）慶応二年三月、米国に留学しモンソン学校に学ぶ。明治二年官費留学生としてひきつづき米国に滞在、翌三年英国に移り同六年ユニヴァーシティ・カレッジを卒業するも、その後の消息は不明。

⑥ 慶応二年四月八日、幕府は、「海外諸国へ向後学科修業又は商売之為罷越度志願之者、願出次第御差許可相成候」と、正式に日本人の海外渡航を許す布達を行った。志願者は目的、渡航先などを明示して、士族はその主人、庶民は奉行、代官を通じて幕府の許可を受けることを要し、もし印章をもたずに渡航すれば、密航者として厳罰に処せられることが、あわせて告示された。渡航先は条約国だけに限られたが、これによって日本人は、幕府の許可があれば、自由に外国に出かけて留学することもできるようになった。

⑦ ロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジをさす。

⑧ 高山義成（一八四二〜一八七六） 薩摩藩士。丈之助と称す。薩藩開成所に学び、慶応元年春選ばれて英国留学生として渡英。留学中は杉浦弘藏と称す。慶応三年八月より米国に移り、明治四年ラトガース大学を卒業。帰国後は東京開成学校校長、東京書籍館長などを歴任し文部行政の近代化に努めた。明治九年米国より帰国の船中で客死。

⑨ 市来勘十郎（一八四二〜一九一九） 薩摩藩士。名は政盛、和彦とも称す。薩藩開成所に学び、慶応元年渡英、同三年米国に移りラトガース大学を経て、明治二年アナポリス海軍兵学校に入る。明治六年帰国後は海軍兵学校校長として海軍教育に貢献した。海軍中將、男爵。留学時の変名松村淳藏を生涯通称として名乗る。

⑩ 森有礼（一八四七〜一八八九） 薩摩藩士。金之丞と称す。慶応元年藩留学生として渡英、同三年米国に渡る。明治元年帰朝し、新政府の徴士外国官権判事となる。明治三年少弁務使として米国駐在、以後外務大輔、清国公使、英国公使等を歴任、ついで明治十八年伊藤内閣の初代文部大臣となり学校制度、文部行政の改革に尽くす。明治二十二年二月、憲法発布式典の当日、暗殺された。

⑪ 町田久成（一八三八〜一八九七） 薩摩藩士。民部と称す。慶応元年留学生監督として渡英、同三年帰国。維新後は参与職外国事務局判事、外務大丞などを歴任し、明治四年文部大丞に転じ、同十年には内務省博物館長にあげられ、わが国博物館の創設と近代化に努めた。明

同廿七日 晴

十一時ヨリ出席十二時帰。昼後學校無之一時頃ヨリ大、工、吉来ル。(大原)(工藤)(吉田)

二時比帰レリ。

同廿八日 晴

十時半過ヨリ工、大来レリ。(工藤)(大原) 從十一時同道學校江出、昼後「スモツト」差支ニテ取止也。

同廿九日 晴

九時ヨリ出席モールスト云人ヨリ十時迄習、十一時ヨリ「ハモント」ヨリ音學十二時迄。一時半ヨリスミットヨリ同三時帰ル。

同晦日 晴

九時ヨリ昨日同断。十時々スミット十一時帰ル。一時々出同人ヨリ二時迄。

十二月朔日 日曜日

十時半ヨリ亭主母サマ同道兩人子共列レ寺江行ク。余多男女銘々椅子ニ付(欠字)ト云説法ヲ成ス。中ニ兩度音楽アリ。十一時半頃帰ル。四時頃吉田、芦原、工藤来ル。芦、吉ニハ先ニ帰ル。工ニハ五時帰ル。

同二日 晴

從九時十時迄十一時十二時迄。一時半ヨリ三時迄ブラオン同道ニテピン付匂ヒ道インキ久松買入并日帳。

(日記第一冊終)

[注]

- ① 長崎で貿易を営んでいた米国商人の一人。一行の米国留学の世話役。
- ② 湯地定基(一八四三〜一九二八) 薩摩藩士。治左衛門と称す。変名工藤十郎。慶応二年三月米国に留学し、モンソン学校を経てマサチューセッツ州立農科大学で農政学を専攻する。明治四年卒業と同時に帰国し、開拓使に勤務、ケブロン等開拓使外人顧問の通訳にあたった。ついで開拓大主典、開拓少書記官となり、農業、牧畜の方法改善に尽力数多くの伝習生を育て、北海道農業の基盤を固めた。のち根室県令、北海道庁理事官などを歴任、元老院議員を経て、明治二十四年貴族院議員に勅選された。晩年は、専門知識を生かして夕張郡栗山町で牧場経営をするが、昭和三年二月十日、東京にて八十六歳で死去した。
- ③ 吉原重俊(一八四五〜一八八七) 薩摩藩士。弥次郎と称す。変名大原令之助。早くから尊攘派志士として知られ、文久二年四月伏見寺田屋事件に座す。時に十八歳。慶応二年三月米国に留学し、モンソン学校を経て、明治二年九月エール大学法学部に入學、政治経済学を学ぶ。明治五年外務三等書記官として岩倉使節団に参加し、報告書「理事功程」を提出、同六年十月外務一等書記官に任じ米国駐在を命じられた。明治七年大蔵省に転じ、租税権頭、大蔵大丞、大蔵大書記官を歴任。十三年大蔵少輔、ついで横浜正金銀行管理長、租税局長、関税局長に任じられ、十七年十二月日本銀行初代総裁にあげられる。明治二十年

學校毎之通十一時ヨリ十二時迄。ハモント一時半ヨリ先生スミットヨリ三時迄。其ヨリ四時迄手習七時頃ハモント、大原、工藤来リ、ハモンドニハ直ニ歸レリ。兩人ハ十一時比迄被嘶候事。

同十六日 晴

九時ヨリ出席イタシ候処先生出席無之空敷歸ル。十一時ヨリ先生ハモント吾輩同道ニテスプリン(スプリングフィールド)(欠字)ト市場江買物ニ行ケリ。メリヤス二枚下百引ニツ上着一揃、此ハ尺迄取仕建ノ上遣ス賦也。六時半歸。沓屋へ行候ヘトモ我足へ逢候沓無之日曜日ニ尺ヲ取ニ行筈也。

同十七日 曇 日曜日

今日學校無之十二時頃大原、工藤来ル。一時比歸ヘレリ。日入時ブラオン病キニ付見廻ニ行。

同十八日 雨

十一時ヨリ學校江出十二時歸宿。一時半ヨリ出席三時歸ル。

同十九日 晴

今日キリストマス祭ニ付學校出席無之事。(クリスマス)

同廿日 晴

今日十一時出席、スミットヨリ習十二時歸。昼後學校休ニテ無之夜六時頃ブラオン、大原、吉田被来同道ニテ本宿ヤ行。此所中男女會集何事ニテモ評議イタス申也。「ヒヤノヲ」(ヒヤノ)聞、吾ニハ直ニ歸ル。(江夏)又久松ニモカヘレリ。

同廿一日

今朝ヨ雪降出シ十一時ヨリハムント所ニテ教方可致差越候得共、甚先生風邪氣ニテ不快ノ姿ニ相見得候間、吾々ヨリ相断リ歸ル。一時半スミツ先生々三時カヘル。

同廿二日 晴

十一時ヨリ出十二時カヘル。從一半三時迄讀書。從三時四時迄手習。

十一月廿三日 晴

九時ヨリ出席十一時歸ル。昼後學校毎之從十一時半宿母兄弟ホーフト云人ノ所江被呼彼人迎ヒニ馬ヲ被遣馬車ヨリ行。外二三四人客人ト相見得二時過歸ル掛ケニブラオン所江立寄。吉田、大原来居暫時相嘶歸ル。

○廿一日晚八時ヨリ宿母様ヨリ讀書習方イタシ每晚読方イタシ候コト。

十一月廿四日 晴 日曜日

學校無之

同廿五日

十一時ヨリ十二時歸、從一時半出四時前歸ル。夜八時ヨリ九時迄亭主ヨリ習。日入過吉田来ル。ロンドンヨリ書状到来。最金四百ポント来レリ。右ノ状持參大、工ノ所江到り直ニカヘル。(大原工藤)

同廿六日

今日西洋ノ年首ニテ學校無之三時比久、吉、工同道ニテ先生所江行、大原跡ヨリ来ル、四時頃歸ル。衣服出来日入前ブラオン々請取也。(久松吉田工藤)

朝食後徘徊

十一月朔日

朝食後ヨリスクール江ハモンド同道学校ノ規則ヲミル。十時比カヘ
ル。昼食後織物所江見物ニ行キ、(木藤)(種子島)芦原、吉田兩人夕方ヨリ轉宿。老
人來リ初テ日本人ヲミル何トソ母娘ニモミセ度又ミニ來レリ。

十一月二日 晴

昨夜七時過ヨリハモンド來リ十一時比迄噺何歟教方ニ付テハ別テ丁
寧也。十時頃大原、(吉原)(湯地)工藤轉宿也。四時頃所江行ク。吾々ノ学問ノ次
第ヲ問フ最先生外ニ女ノ師匠一人兩人ニテ教ユルトノコトナリ。字
書ハ(欠字)ト云人教也。其人モ來レリ。

同三日 晴 日曜日

朝後工藤、大原、芦原、吉田來ル。昼後我々兩宿江見舞、夜入過ヨ
リ家内ノ者外ニ客人女二人色々咄至極了寧教方イタス也。九時ニ引
取也。

同四日 晴

十一時学校出十二時歸ル。一時半ヨリ出二時カヘル。夜六時出手習
八時歸ル。客一人來ル。書方等教了寧也。今日ヨリ初テ學校江出。

同五日 晴

十一時出十二時歸ル。一時半出三時歸ル。七時頃ヨリハモンド來ル。
外ニ客來三人。ハモントニハ八時比歸ル。外客人ヨリ読方ヲ習ヒ。

同六日

九時(欠字)ト云宿江轉宿、我々言葉不通故大原同道彼是ノ都合頼
ム也。十一時學校江出十二時歸ル。昼食後者先生スミット云女差支

ニテ読方無之。

同七日 晴

每之通學校江出席。

同八日 晴

每之通出席。

同九日 晴

同十日 晴 日曜日

今日學校所無之休也。

同十一日 晴

雪七八寸位積。每之通出席三時ヨリ手習有之四時過歸。學校江出前
芦原宿江行。

同十二日 晴

今日モ雪。每之通出席。三時ヨリ手習四時ニ歸ル。

同十三日 曇

今日每之通出席。二度共ミスヨリ習事。

同十四日 晴

昨夜ブラオン來リ一泊今朝歸ル。每之通出席。歸ニ大原、芦原來ル。
ブラオンニモ來リ居四時過迄被咄被歸也。

同十五日 晴

四郎子也。ト云昨十三日着相成候由ニテ被参一宿被致候。

同十七日 曇

十時過右兩人種(種子島(湯地))湯同道ニテ乘来候迄被差越四時比被歸候。木藤氏書状到来。

同十八日 晴

昨日肥後藩被歸一宿。木藤氏書状亦到来。

同十九日 晴 ソンテ

今朝雪少シ見ユ。

同廿日

朝八時新約克(ニューヨーク)出足、大原(吉原)同道ニテポストン木藤氏ノ所江行ク。晚六時比ポストン江着、其レヨリ馬車ニテ大川有之候ヘトモ其処蒸キ船ニテ渡ストイヘトモ馬車共ニ乗組木藤氏ノ旅宿江着、木藤へ面會一宿途中雪積ミ諸所ニ沼有リ、皆大方氷ニテ張キリ、余程新約克(ニューヨーク)ヨリ寒強ク大抵路數三百里位也。

同廿一日 晴

昼二時ポストン宿ヤヨリ馬車ニテ鉄車迄其ヨリ鉄車ニテ新約克江(ニューヨーク)十時頃着也。鉄車ニテ「モンソン」「ハモンド」云人江面會吾々ノコトモ「イタシ別テ丁寧也。

同廿二日 小雨

昼食後ホーク所江江、(江夏)(吉原)吉同道馬車ヨリ差越暫時咄カヘル也。

同廿三日

終日書見。夜食後遊歩ス。百引繕方頼也。

同廿四日 晴

夜八時ホルレグ来リ直ニカヘル。

同廿五日 晴

朝飲後十時ヨリホーク所江ホルレグ同道ニテ我々上着取入ニ行キ三時比歸宿也。

同廿六日

同廿七日 晴

二時ヨリホーク所江行ケリ。歸ニ「ボードル」ト云人江「フルベツキ」ヨリノ書状ヲ届ク。外ニ兩人アリ至極丁寧ナリ。テリス(フェリスカ)ト云人ニモ同断。最老人ミストルノ由、別テ丁寧也。夜食後ペンポクケツト取入ニ行ケリ。

同廿八日

昼食後ヨリホーク所江行キ太刀ヲ与ユ。別テ満悦也。歸ニ紙ヲ取入レニヨル。五時頃歸ル也。

同廿九日 晴

未明起六時食仕舞七時打立ステーション(ステーション)迄行キ暫時待ツ。ホルレグ八時前来ル。直ニ鉄車江乗込。二時前シンバホールト云ステーション迄ハモンド迎ヒニ来リ被居ソコニテ昼食仕舞、三時過ポストン江着パークホテル江宿ス。

同晦日 晴

九時ミストルトミ来ル、ミストルホーク来ル。ポーク同道ニテセント
トリーパー花園ヲ見ニ馬車ヨリ行ク、トミニハカヘレリ。大抵五
六里廻有之ラン小岡ニテ上ニ一里廻位ノ溜水有之、此ハ四十里余ノ
処ヨリ来ル由、其水新約克中ノ水皆其水水道ニテ用ヒシ由、自然ノ
影色ニテ甚廣大也。英国花園ト比較スレハ中々一抵ノ処廣大也。誠
ニ感心セリ。十二時帰ル。三時比木藤氏書状到来、彼ノ方モ都合充
分宜ク由也。早クキタレトノ書状也。

同七日 晴

昼食後ヨリホーク所江行ク。我々ヨリロンドン江書状ヲ遣ス、右ノ
ホークヘ頼ミ遣ス也。日入前帰宿、夜食後遊歩ス。宿亭主モ同道ス、
書店ヘ到ル。皆書物ヲ取入吾未読書不出来其故書物買入モ不致、悲
ムベキハ愚鈍故也。可歎く。

同八日 晴

終日読書。夜食後遊歩。

昨日英国ノ蒸氣船着、其新聞紙ノ内大樹公死セスト見得タリ。長州
戦争モ止ムタル由、傳信記ヨリ来ル也。

同九日 雨

終日書見。木藤ヨリ書状来ル。此方ヨリ返書遣ス也。

同十日 晴

二時頃ポシス来ル。暫時嘸帰ル。夜食後江、吉、湯同道遊歩。終日
読書。吾、江夏フキ出イタシ昨日ヨリ亭主母醫道相分ル人ニテ葉ヲ

貰イ吞ム也。

同十一日 晴

四時頃ポシス来ル、暫ク嘸帰ル。終日読書。夜食後江、湯同道遊歩
ヲ成ス。

同十二日 晴 ソンデー

讀書、夜食後種、湯同道遊歩。

同十三日 曇

二時頃ヨリ亭主案内ニテ写信ヲ取ニ行ク。四時頃帰宿。夜食央ニ木
藤氏書状到来ス。

同十四日 晴

九時頃ヨリ吉、種、ポーク所江行ケリ。ポーク今晚ヨリボストン江
行ク段嘸也。ロビ子ツト書状到来、跡便ヨリ金子遣ストノ旨申遣
セシ由、今四五日ノ内ニハ其舟着ノ賦也。風呂ニ入ル。夜食後、湯
同道遊歩ニ出ル。

同十五日 晴

二時頃新約克中央消人火消道具列ヲ成シ市中ヲ列行スルヲ見ル。

同十六日 曇

昨夜三時頃宿屋ノ半町位ノ処へ出火有之候得共乍寢見ル。故ハ皆土
ニテ家作成ル故也。火消道具ハ都テ機械ニテ纒カノ人数ニテ何コト
モカラヲ働セスシテ濟也。種、湯御国元江書状仕出ホーク所江頼方
トシテ行ケリ。夜七時頃肥後藩伊勢佐平次、沼川三郎兄弟也、横井平

候ニ付其レ迄之間吾々一金モ持參不致且一万余千里ノ渡海、其上言葉モ不通甚心痛、実ニ如何ントモスルコト不能候ニ彼ノ方へ申遣金取寄候ニ付、其レ迄者乍不肖心配イタシ呉レ候様致相談候処、今四五日ノ内ニ上海ヨリ飛脚船着ノ筈候間其迄者見合、万一其便ヨリ何ノ儀モ無之候者其通可致、何分先安心可致候旨承ル。其ヨリホーク、オルモントニモ同道吾々ノ宿ヤ江来レリ。漸時咄カヘル。

同二十九日 晴

朝食後唐人来レリ。オルモント来ル、ホーク来ル。唐人(欠字)ト云、吾々英語不通ノ由ニ付若通詞ヲ好ムナラハ吾レ勤メントノ意也。吾々外ニ通詞有之ト答フ、カヘレリ。右ホーク、オルモント同道ニテホーク店ノ両替ヤ江行ク。(ニユースペーパー)ニユースペーパー所江行其ヨリワカレ、吾々ニハカヘル。ポンペリト云人來ル。此人金山学ヲ成ス人ノ由、先年幕府ヨリ頼入相成、日本江一年半位来リシ由、右ノ咄ハ此内吉原ヨリ咄ヲ聞ク。(吉原)吉原江戸へ出居候トキ武田矢三郎ト云人ノ教ヲ受シ、其人ト一緒ニエゾー江行キシ咄ヲ聞居其咄共イタス。(欠字)ト云来ル。此人余程日本語能通シ何コトモ不分コト無之長州戦争ノ咄共有之外ニ(欠字)客到有之。皆言葉不通コトヲ新聞ニ見聞シ故不自由ナラント日本へ来リ言語相分リ候人或ハ某ト云人日本語分ル人ニ有之候間知ラスルト告来リ也。誠ニ親切也。オルモント、ホーク来ル。吾、大原右三人宿ヤ見ニ行ク。亦吾ノ宿ヤへ来ル。暫ク咄カヘル也。

十月朔日 晴

九時過ヨリオールモント来ル。吾輩同道ニテポーク所江行ク。然ルニ吾、大原、ポーク所ノボルレクツト云人ト同道ニ宿ヤヲ見ニ行ケリ。隨分宜ク亦ポーク所へ同道ニテ行ク。昼飯手傳同道料理ヤヘ行ケリ。又ホーク所ヘ行キ暫ク咄カヘル。四時過右ボルレクツ来リ右ノ宿ヤ江轉宿ス。日入前歸ヘル。今日モ漸時ノ間直ニ両三人客来其名ヲ不留。

同二日 晴

九時過木藤市助殿外兩人亜ノ人同道ニテ来ル。互ニ嬉敷段々日本国ノ咄共相聞最吾愚兄ヨリモ書状来ル。何事モ無事ニテ安心セリ。木藤氏ニモボストンエ差越相成、一時半比咄咄サレ、何歎ヲ差テ咄ヲ聞コトモ思タラン様ニ有之也。今日客来等モ無之終日読書。

同三日 晴

終日在宿夜食後遊歩ニ出候跡ニポーク来リシ由、亦来ルトノコト傳言有之候ヘトモ不来。

同四日 晴

朝ヨリ四時比咄書見其ヨリ亭主同道ニテホーク所ヘ行ク。右ポーク留主ニテ其儘馬車ヨリ歸ル。

同五日 曇 日曜日

終日読書。夜八時比ヨリホーク来ル。九時半過咄相噺歸ル。

同六日 晴

也。四時比別ルル。直ニ船出帆ス。六時比ヨリ寝ル。蒸キ船ニテ大
キナルコト五十間余使人六百余人余男女有之。江、吉、種、吾四人一
緒ニ居、湯地一人外ニ外国人一緒ニ住メリ。

同十七日 曇

微風浪静ニテ舟甚進メリ。二時^①クインスタウント云港江碇泊四時比
出帆。

同十八日 小雨

浪少シアラク候処男女過半者船酔ニテ無理ニ相見得、吾輩ハ皆元氣
也。是歟前以ノ長舟中ノ助ナラン歟。

同十九日 曇

昨日同断。

同二十日 曇

昨日同断。一時比ヨリ追風ニテ帆ヲ揚ク。

同二十一日 雨

昨夜半前ヨリ風大浪荒クシテ船甚轉動ス。女童子杯ハ皆泣サケヒ音
聞ニ不被忍也。食事甚混雜セリ。

同二十二日 曇

同断。

同二十三日 曇

昨日同断。我祭礼ナラント咄也。

九月二十四日 曇

昨日同断。浪アラク甚混雜也。

同二十五日

順風ヨク皆帆ヲ揚ク船甚瞬息三百二十余里進候由也。

同二十六日 晴

昨日同断。順風甚能ク船進也。

同二十七日

昨夜十時比港口江入暗夜其上法則有之ト見得タリ。碇泊未明ヨリ小
キ蒸氣船引キニ来リ八時^(ニユーヨーク)ニユーヨーク江着。実ニ一万余千里ノ海上
安平、亜国ノ有様ヲ一見其心中難述、乍然日曜ニテ陸ニ上ルコト不
相成滞舟。十時比ホリギリト云人外ニ日本言少シ訣ル人同道ニテ来
レリ、別テ仕合也。乃チロビ子ツトヨリノ書状且上海ノホリギリノ
書状モ渡ス也。十一時比帰ル也。

同二十八日 晴

十時ニ右ノ兩人来レリ。荷物相改ル法ノ由候ヘトモ不相改濟也。直
ニ上陸^(メトロポリス)メトロポリスト云^(ニユーヨーク)ニユーヨーク一
番ノ宿ヤノ由、英国ノ宿ヤ
ヨリモ大ク最美麗ニ有之何篇盛シナル模様也。其ヨリホリギリ所へ
到レリ。然ルニ彼ノ方ヨリ言フニ汝金ヲ持参ナセシカト問フ。吾輩一金
モ持参不致ロビ子ツト世話ニテ汝ニ手形ヲ差遣ストノ咄申聞セ候処、
ロビ子ツト^(本)其儀ニ不能旨答フ。吾輩実驚天如何ントモスルコト不能
進退極マレリ。余程彼人モ心配ノ由也。吾々言フイタシ方無之國本
江掛合候而茂日數ヲ経候儀ニ付幸吾輩朋輩七人英吉利^(本)為学問来リ居

咄ニ押移リ二時前迄咄カヘル。

同十二日

十時畠山君宿亭主子同道来レリ。直ニ吾輩致同道馬車ヨリ錢鑄物所見物機械ニテ其早キコト実ニ感心セリ。毎日都テノ職人五十人ノ由、大抵一ケ年ニ九百万枚位ノ由、其ヨリ婦ニマアチン所へ差越同道ニテ(ハーラメント)パールトメント云議政所見物主客差別有之互ニ一人中ニ進ミ出高音ニテ演説ス。又一人進ミ出一人々々如斯窮マル処人数ノ多キ方ニ行ハルル由、當分取止メ相成リ坐敷迄見物、家作ノ美ナルコト一々感心セザル処無之、其ヨリ武器ノ納ル処有リ古ヨリ只今マテ用ヒシ武器ハ勿論軍艦コト々々ヒナカタ有之、最大炮小銃皆古ヨリノト有之、或名高難戦ノ処ハ野カタヲ作り小サキ人形ヲ作其時ノ備付ヲナス。其ヨリカヘル。六時ヨリ舟将ス(Captain John Stewart)チイル来リ食事ヲ取ル。是迄舟中丁寧ニ致シ呉レ候礼トシテ招請ス、十時前カヘル。吾々ニハ又マアチン(ママ)透引ニテ音楽ヲ見物ニ行ク、隨分面白ク帰ニハ吾カ宿ヤ(ママ)迄送り来ル甚真切也。

同十三日 雨

九時前ヨリ町、(町田)畠山(市来)、市三君来ル。吾輩同道ニテキリスト(クリスタル・パレス)パルスト云所七里計ノ所江鉄車ヲ行ク。此所世界一ト云処ノ由、大抵三四丁ノ家高サ二十五間余有之ン、柱ハ都テ鉄柱ニテ上ハ硝子張り中ニ色々ノ店有リ、又諸国ノ珍敷草木或ハ鳥獸其次第至ラサル処ナシ。実ニ美ヲ尽スノ極也。四時前々鉄車ニノリカヘリ四人ノ衆々吾輩江残(ママ)

別トシテ料理ヤ同道大ヒニ馳走ナル也。九時比致同道吾ノ部屋ニ至リ一時比迄嘶銘々カヘル。

同十四日 雨

十時前町田君来レリ。十時半前ヨリ吉、大、工三人同道ニテ學講見物ニ行ケリ。久、吾々ハ今出立ニ付御国元江書状認方ニ付不行、二時過町田君同道ニテ帰レリ。二時半ヨリ畠、市、森三君来レリ。四時半過マアチン来ル、其ヨリ同道ニテ馬車ニテ鉄道ノ処マテ皆送り来レリ。直ニ蒸氣車ニ乗付別ルル。五時々十時半ニテレバ(リバ)パール江着二百里位有之由、吾国ノ時ニシテ二分ノ一、大抵百里位也。直ニ宿ヤ着、是モ大ナル家ニテ八家有リ、江夏ト一緒ニ住メリ。食事等イタシ直ニ寝ル。

同十五日 曇

十時比々マアチン同道にて諸所見物、船コシラ工場、夫々世界ニ二ツト云蒸氣船致見物、帆柱六本燈煙三本其機械之大ナルコト誠ニ目ヲ驚セリ。婦ニミストルシヨウ所立寄吾宿屋へ透引食事一緒ニ取ル。何分船コシラへ場ロックノ澤山ナルコト音ニ聞クヨリモ甚シ。五時比シヨウ所江差越面會同道ニテ吾々宿ヤ江至ル。一緒ニ食事ヲ取ル。

同十六日 曇

一時宿ヤ出立馬車ヨリ川迄行、然ル処シヨウ父母兄弟親類中參居本船スチーパリス迄見送り本船ニテ食事等差出一緒ニ食酒吞別テ馳走

レガラフニテ通シ処也。其レヨリ「マアチン」ニハワカレ吾々ニハカヘリ昼食事仕舞亦地半エリマキ採取入方ニ(島山)島君同道直ニカヘル。

夜入過食事致ス。森君来リ島ニハ帰レリ。森君案内ニテ古今名高人、

諸国ノ王君或反對ニシ名高キ科人ノ姿造立有之誠ニ能ク似合則現事

ノ人ト見得間ニハ動クノモ有之実ニ見過様也。仍テ第一主トスル所

フランス国ノナブレオン(ナブレオン)或ハ其人ヲトリコニイタシ候(欠字)ト云

人ノ次第ヲ取立ル為ト見得タリ。就テ(欠字)ト云人ハ英国ニテ軍

功ノ有ルコト第一ト見ヘタリ、姿モ能クイカニモ英雄ノ姿也。最軍

ニ用ヒシ衣服又ハ用器或ハ軍功ニ仍テ褒美ノ如シ都テ有之ナブレオ

ントリコニ逢ヒ嶋流シ死シトキノ次第一々顕シ最所持道具、其トキ

ノ衣服用具細カナル者迄モ皆有之、妻子モ同断或ハ諸所ニ於テ難戦

是繪ニテ顕セリ。當時名高人段々有之候ヘトモ佛国女王余程人望有

之由、君王ナブレオント云テ先ノナブレオンニモオトラン程ノ人ト

云由、其ヨリモ布テ人望ハ有之由、近比ノコトノ由、病院江貧人至

極ノ難病ニテ初ハ脇ヨリ看病イタシタル由ニ候ヘトモ皆後ハ続兼看

病致シ呉レ候人無之下聞付ケラレ自ラ病院江至リ其人ヲミラレ候処、

既ニイキ絶ヘントスル所ニテ直ニ其人ノ手ヲ取り声ヲ掛ケラレ候処

目ヲヒラキ見、其儘死シ候由、其様ナル丁寧ナル人ニテ人民皆服シ

居ル由。

同九日 晴

毎日霞深く少ク隔ルト先不得見、九時過キ市来君来レリ。十時ヨリ

八百年余相成タルト云古城有之テ今七百人余守衛ス。最英吉利祖先

ヨリ代々ノ君王大方戦争ニ被出シ形チヲ作り、先年ハ矢張り鎧ヲ用

ヒシ由ニテ面手足残りナク鉄ニテ甚愚ナル者ニ候。其内ミニヘル六

万七千挺拵護相成。其カラ君王世統ノ時冠リ納ル処有之、是ハ皆

(欠字)其外飾リ物ハ金也。其ヨリ大ナル花園アリ花ハ勿論各国ノ

珍敷鳥獸澤山見物セリ。夜七時比ヨリ町田氏同道五人ナカラ四五丁

ノ処ヘカケホシニテ術ヲ見物ス。十時比カヘレリ。

同十日 雨

十時過ヨリ町田君来ル。同道ニテ二十四里有之処(15)国君城見物ニ至ル。

當時君パリスノ方住居ニテ都テ住居所迄無殘見物ス。色々器物金銀

ニテ美ヲ尽シタルモノニ候。大方坐毎ニハ諸所ノ軍ニ於テ軍功戦死

等致シ候人ノ繪圖有之或ハ諸国王ヨリ珍シキ送り物等ニテモ有之候

ヘハ飾付有之城内ノ者都テ見物ス。帰ニハ又鉄車ニテ二十四里ノ道

ヲ四半時モ不掛カヘレリ。

同十一日 雨

十時(16)天門臺ヲ見物ニ森君同道行七里計有之処ニテ川下故蒸氣船ニテ

到ル見物ス。余程機械タクミナル者ニテ吾不分。帰ニハ川ノ下ヲク

リ抜キニイタシ候処有之、大抵二三丁モ可有之、甚タクミナルモノ

也。夜八時ヨリ森君宿亭主ヨリ吾々ト茶ヲ一緒ニ呑度候間可来傳言

有之候ニ付差越町田君ニモ来レリ。段々馳走余程丁寧ナル人ニテ當

分小學講ニ番ノ役ヲイタス人ノ由、人望有之人トミヘタリ。色々ノ

(欠)度。東経。

同五日 曇

昨夜日入前ヨリ追風相成、乍然微風ニテ余リ舟不進今日同断、益微風十二時過小舟スルツプニテ何カ用事有ルト見得三人来レリ、暫ク相嘶帰レリ。南緯。

同六日 曇

昨日同断、微風至極平浪十一時前蒸氣船来リ吾ノ船ヲ引亦帆舟来リ道先案内者一人乗レリ。二時昼飯仕舞甲板へ出候処英国地方ロウエルト云所ミユ、其嘻(嬉)シキコト無限。此所城抔有之最臺場陣屋有之兵士数多居ルトノコト也。向ヨリハ追風ニテ船ニ行逢コト絶間ナク実ニ世界一ト云程ノ都ナト有之也。始終地方ニテ家等見得耕作余程キレイニミユ、軍艦一艘(ママ)はハキボウホウニ行ク舟也。蒸キ船モ数多也。大ナル蒸氣舟ニ逢フ、是ハニユヨク(ニユヨク)ヘ行ク舟也。八時比川口ニテ掛念ト見得滞船。

同七日

未明ヨリ碇揚六時引舟来川登十時比(欠字)ト云所へ着船。荷物等片付舟将一人シヨ吾々同道上陸イタシ四五丁ノ処ヨリ鉄車へ乗リロントン迄ハ二十二里ノ由、纔半時位ノ間ロントン(ホ)迄着、則口ビ子ツトヨリ書状遣シ候所へ舟将同道亭主江逢候処別段丁寧、舟将ニハ歸リ吾々ニハ亭主案内ニテ馬車ヨリ学校江差越、⑧(眉山義成)⑨(市来勘十郎)⑩(森有礼)畠山、市来、森江面會⑪(町田久成)互ニ喜悅直ニ引連レ吾輩宿ヤへ行ク。町田君宿へ立寄彼モ同行、ガ(アラ)

ランド・ホテル、テル
ラントホーヤロントンニテ一番ノ立派ナル由、誠ニ大家八階吾七階

ノ二百四十番ニ住メリ。其美麗ナルコト至ラザル処ナシ、惣テノ部屋(欠字)ナル由、客来(欠字)當時有之由、彼是致シ候処空腹ニ相成食事致ス、風呂ニ入ル其風呂中ハフレキノ様ナルモノ淵ハ木色ヌリニテ中々至タルモノニテワキ出シ一ツノ詮ヲ引キ候ヘハ水、一ツノ同断湯、又一ツノ同断致シ候ヘハハカスル処也。英国一度ニテ皆捨ル也、二人入ルコト甚イヤシム也。最入ルトキハ鍵落シ人ノ入り不来法也。市来、森、吾輩同道ボシ取入ニ差越直ニ歸ル。町田、畠山氏亦来レリ、夜陰迄被咄被帰也。幕長州戦争相成候処幕府勝利ノ由横濱ヨリノ新聞ニ有之トノ咄也。⑫(オーストリア)大スタライヤトフロイシ、イタ(オーストリア)イヤノ戦争フロイシイタ両方ヨリ責込終ニ大スタライヤ敗亡ノ由、過分ノ償金ヲ出ス筈トノ咄也。

同八日 曇

朝八時前起リ九時ニ食事仕舞部屋へ揚リ候処、町田君来レリ。吾輩荷物未不来故不自由ナラント櫛紙ヲ持参吾々へ恵ラレ候。畠山氏被参町田ハ被帰畠ニハマーチン所へ差越面會、最鉄車ニテ市中家ノ下堀抜ノ処ヲ惣テ通レリ、其タクミナルコト甚感ニ堪兼タリ。用事済右人モ同道ニテ又鉄車ヨリ舟へ荷物揚方トシテ差越、舟ハ最早ロツクバへ来リ舟荷揚最中也。一ツロツクヘ何十艘ト云数不知実ニ大キ者也。亦歸ニハ鉄車ニテ暫時「マアチン」所へ立寄亦案内ニテ兩替ノアル処へ行ク尤家作大也。毎日ノ新聞ノ書クル処也。諸方ヨリテ

同二十八日 曇

從昨夕方風真向相成曲走、九時蒸氣舟ニ逢一町位ハナル最大也、帆柱四ツ有英舟也。外舟諸所ニ見ユ。南緯四十八度十七分東經八度三十六分。

同二十九日 曇

昨日同断、向風^ニ曲走故ニ船不進、昨夜半船ニ行逢纔一間ヲハナルルトノ咄也。何分暗夜ニハ有之候ヘトモ我思ニ水夫ノ油断ナラン歟。南緯四十^(欠)度。

同晦日 曇

昨日同断、向風曲走風ヨケレハ昨日可着ノ処残心不少。今日共ハ余程皆鬱屈也。朝ヨリ船見ユ。南緯四十^(欠)度。

九月朔日 曇

朝ヨリ霧深ク纔前後不見得其故ニ為不行逢舟先ニテ水夫共笛ヲ吹合圖ヲ成ス。夜ハ先キ両方ニ燈火ヲ明カス、始終油断ハ無之何事モ嚴重ニ規則被相行舟將、助役、メイト一人右ノ次メイト助一人三人ニテ万端洩目無之。南緯、東經。

同二日 曇

風向同断、向風ニテ曲走故ニ船不進何分港近ク相成日夜船ニ逢、今朝魚取船數十艘ミル、南緯四十^(欠)度、東。

同二日 曇

(Charles. E. Shaw)
昨夜シヨトチエス勝負央ニ九時比甲板ニ舟將周章ケ敷ナル聲ヲ發候

ニ付、其儘飛出候処帆船二十間位ノ処へ来、直ニ吾々ノ舟頭江當ル音ワリノ瞬間此限リト思ヒシカ、直ニ舟行過タリ。吾ノ舟頭少破損シタリ、向ノ舟ヤリダシ其外大破ニ及ヒシトノ咄、ヤリ出シハ吾ミル内ニ三ツ共ニ落ル也。フランスノ舟ナラントノ咄也。今朝共ハ余程寒ク風益強ク同断向也。舟ノ往来余多也。昨日入時分ヨリ英吉利之内ステート^(スタート岬カ)云地名ノ所見ユ。初テ地方ヲ見其^(嶺)噫難書盡。一時^(ホートランドカ)ホールラント云英国ノ内地方見ユ、遠方ニテ何モ不相分、昨夜ステート云所ノライトハウス見ユ、廿四里ヨリ内ニ入候ヘハ見得由、廣大ニシテ高キコト甚シ、何分言語通兼子細不分残念、惣テ海岸ハ色分ケニテ透間無之燈火也。フランスモ同シ同断。日入過ヨリ火ニツ見ユ、日入前小帆船一艘吾ノ舟江来リ舟將江向ヒ話ス、返對直ニスルツプヲ落シ兩人来ル、一人大男一人水夫トミユ舟へ残ル、浪大ニシテ舟轉動甚シ、仍テ水夫周章ケ敷聲ヲ出ス呼フ誠ニ急窮トミヘタリ、一人舟將へ面會舟將右ノ人へ書状ヲ頼遣ス、鉄道ニテ今夜十時^(ママ)ロンドンへ届ク由、最当所へ舟居ルト云コトハ傳信^(ママ)ニテ通スル由、是ハ纔一時ニモ不及知ルル由也。段々新聞紙持来当ル也。南緯。

同四日 曇

同断向風始終曲ル、英吉利地方ノ方ハ時々地方見ユ、十一時半地方ミユ、ライトハウスニツ家諸所ニ有ル、地面ハ甚惡地ト見ユ、皆赤ハケニテ中国ミタ様ナ所也。此嶋ノ裏抜ケ通りニシテ能キ港ナル由、最造船場等有之所ノ由、国君稀ニ遊散ニ来ルトノ噺也。南緯四十

々數可有之ナラン。新物ノイモ其外ノ者歟思出サレ、茶ハカリニテモ可宜ト物笑ヒニテ候、至極微風靜浪。南緯三十五度二十九分東經三十四度四十分。

同十七日 雨

昨夜甲板上ニテ月ヲ見ル。清月光ヲ輝シ其影色呼鳴美也。十時過部屋へ入寝ル。今朝追風相成夕方ヨリ風向違不定。南緯三十六度四十分東經三十三度四十三分。

同十八日 雨

叛風浪大也。南緯三十七度四十五分東經三十一度四十分。

同十九日 晴

風向昨日同斷、昨日ヨリ飢物宜ク相成部屋へ終日入ル。今日モ同斷。十二時船見ユ。纔一町位アリ、イタライヤノ船也。^(イタライヤ)二時ヨリカスカニ嶋見ユ、五時ニハ近寄家杯見得久々振地方ヲミ何かウレシクトモ不言可思心中如何^く。南緯。東經。

同二十日 晴

微風靜浪從朝嶋見ユ、十時ニハ纔十町位ノ通家數軒有リ。野ニ耕人牛馬諸所ニアリ。家作ハ皆歐羅同シ間々カヤ家ノ様ミユルモアリ。最高山アリ高サ七千尺アル由、島ノ名ハリコト云。^(ママ)密柑其外穀物有之処ノ由。南緯三十^(欠)度東經二十^(欠)度。

同二十一日 晴

昨四時比ヨリ風少々吹出追風船進気色モ能。南緯四十度五十分東經

二十四度五十四分。

同二十二日 晴

朝洗身微風。南緯四十二度四十五分東經二十二度。

同二十三日 曇

昨夜半比ヨリ風大ヒニ吹来皆帆ヲ下ル、纔帆五ツヲ掛ク。今朝潮甲板江打込其故出ルコトナラス最寒ク部屋へ入ル。追風ニテ船瞬行舟中皆喜悅不斜。終日甲板へ潮打入船ノ轉働^(ママ)第一也。鬱屈憂苦思可知。南緯四十五度二十分東經十九度三十一分。

同二十四日 晴

昨日同斷、少風弱成帆モ十計揚タリ。南緯四十六度三十八分東經十四度三十分。

同二十五日 曇

昨夜九時比ヨリ風止夜明ヨリ風向變舟不進、四方ニ船見ユ、大形英吉利也。大抵二十五艘ハ數ル也。何分都近ク相成願クハ昨日ノ風今兩日吹統候へハ着船可相成ノ処残念也。終日通船軍鑑一艘^(ママ)ヂリメン^(ママ)国也。何十艘トモ數不知。南緯四十七度三十五分東十二度二十四分。

同二十六日 晴

朝洗身全ク無風浪平靜余リ平和ニシテ布テ氣鬱蒸氣船六艘見ユ、遠ク帆船間々ミユ。南緯四十七度四十四分東經十二度六分。

同二十七日 曇

從昨日有微風船稀ニ見ユ。南緯四十七度四十二分東經十度八分。

同三日 晴 (ママ) 夢コーサ

昨夜ヨリ風強浪大船甚進。朝六時甲板エ出船一艘行逢、又十時比ハルカ先二船一艘見ユ。十一時半逢抜ケ先二成ル。十時半ヨリ雨降昨日真日ノ下ヲ通ル。今日ハ暑強氣候甚惡敷皆不氣色、甲板ハ惣テ塗直其故出ルコト不能部屋籠ニテ憂苦ニ堪兼也。南緯七度。

同四日 曇

朝洗身風昨日同浪大也。雨稀ニ降ル。四方雲有氣色甚惡敷甲板ニテ讀書、二時過ハ雨降風ナク四時前雨止微風来ル。南緯東經。

同五日 晴

朝洗身至靜浪甚微風暑氣強ク於甲板讀書。南緯十度。

同六日 晴

從昨日有少多風、乍然マキリ走風向甚不宜暑氣同不氣色也。南緯東經。

同七日 晴

昨日同断、風向同微風暑氣甚終日甲板ノ上小舟ノ上ニ出昼過ヨリ少風アリ。南緯。

同八日 晴

朝洗身昨夜ヨリ風強小舟之上潮掛ル。二時半比二艘前後十町位ナラシニ纔二町バカリノトコロ通一艘ハホルトガル一艘ハオランダ也。五時比二里位所一ツ見ユ、何分風浪強旗ヲ不揚故ニ国不知、朝二艘ニ行逢シ由吾等ハ不知、都合五艘也。南緯。

同九日 晴

從昨日強風浪大也。潮ハ甲板ヲ越一統氣色甚不宜。南緯十七度二十分東經三十度。

同十日 晴

朝洗身風浪昨日同シ甲板鳥駕籠之上讀書致居候処、潮打込髮ヨリ酒ル也。南緯二十度四十分東經三十二度三分。

同十一日 晴

朝洗身風波同シ船進行飢持余程宜相成、乍然浪太ク船轉動氣色甚憂鬱々。南緯二十四度二十四分東經三十三度四十八分。

同十二日 晴

朝洗身風浪同断、船甚瞬行。七時夏時ヲ起ル也。南緯二十八度五分東經三十四度二分。

同十三日 晴

朝洗身風浪同断、船進行。南緯三十(欠)度東經三十(欠)度。

同十四日 晴

昨夜九時比全ク無風今朝微風靜浪、十時過ヨリ風向違船行益幸也。南緯三十(欠)度東經三十(欠)度。

同十五日 晴 Sunday

朝洗身微風靜浪。南緯三十五度十一分東經三十四度十一分。

同十六日 晴

朝洗身昨夜十時比込甲板江出月ヲミル。故郷之嘶共致シ咄今比者賑

分。

同十九日 晴

朝身洗昼過ヨリ微風帆船二艘見ユ、一艘英吉利ノ由、吾乗シ船同人造シ船ノ由、名アルマト云、一艘ハ遠方ニテ不知。南緯二十七度七分東經四度五十三分。

同二十日

静浪微風。南緯二十五度四十三分東經二度三十五分。

同二十一日 曇

昨夜半ヨリ風吹出、朝夜明ヨリ雨少々フリ船進行、帆船一艘見ユ。

南緯二十三度十五分東經令度三十八分。

同二十二日 晴

追風ニテ甚強浪大也。七時比ヨリ船一見ユ。十二時過先ニ吾舟ナル

也。南緯二十度九分東經二度二十六分。

同二十三日 晴

昨日同断、船甚進行。南緯十七度十二分東經四度四十六分。

同二十四日 晴

潮ニテ朝洗身、風昨日同断、船甚瞬行、七時比ヨリカスカニ船見ユ。

南緯十四度四分東經七度二十六分。

同二十五日 曇

朝同洗身風同船甚進。南緯十一度九分東經十度十二分。

同二十六日 晴

朝洗身風昨日同断。南緯八度五分東經十二度三十八分。

同二十七日 晴

朝洗身、從昨日微風ナレトモ追風ニテ船進。南緯五度三十八分東經十四度一分。今日ヨリ温和ニ相成甲板之上ニ出讀書。日々温暖相成三日跡込ハ吾十月比飢物(ママ)ノ処今日ハ四月比ノ飢物(ママ)ナラン。春夏秋冬一時ニ来ル朝夕ノ違也。

同二十八日 晴

朝洗身風昨日同断、静浪温和一時前船主ト將基ヲサス二番負一勝。

南緯三度三十三分(ママ)東經十四度三十三分。

同二十九日 晴

朝洗身風昨日同断、静浪平和。南緯一度三十二分(ママ)東經十七度二十七分。

同晦日 晴

朝洗身微風静浪。朝六時比赤道通船ナラン船將咄也。氣柄ガ余程強

暑有之。南緯令度二十分東經十八度四十三分。

同八月朔日 晴

静浪至極之微風也。朝ヨリ帆船見ユ。九時前ヨリ近ク半里内ナラン

例之通(フラッグ)フレキヲ揚ク。阿蘭陀国ハンポクト云所之船也。名エモムラ

ヤト云。南緯二度十分東經十九度三十三分。

同二日 晴

朝洗身十時比ヨリ風有リ、十二時船行逢例之通(フラッグ)フラキヲ揚ク英吉利

之船也。南緯。

同五日 曇晴 tuesday

昨日同。南緯三十三度七分東經三十度五十八分。

同六日 曇 wednesday

向風甚強ク船不進浪荒ク、十時比ヨリアフリカノ地見ユ。南緯三十二度四十四分(LAT)經三十八度五十六分。

同七日 曇 thursday

朝洗身十二時比ヨリ追風ニテ少船進。南緯三十三度四十分經二十七度四十六分。

同八日 晴 friday

向風甚強浪大ニシテ船不進夜中英船追付(インド)インロヨリ帰船ノ由類船三艘ノ由也。二艘ハミル。南緯三十五度七分東經二十三度三十一分。

同九日 晴 saturday

同断風向強風浪大船甚轉動候。南緯三十四度四十分東經二十二度四十七分。

同十日 曇 sunday

同断向風強風浪大塩(潮)は甲板打越船甚轉動候。南緯三十四度四十分東經二十二度四十六分。

同十一日 晴

朝洗身静浪微風船不進八時前二尺位魚二斬被均ル。此之通毎も魚沢山居る所之由、昼過ク風吹出し、夜入甚強。南緯。

同十二日 晴

同断向風風激浪強風浪は甲板打越海上雪之山之如し。船一艘逢(イギリス)イキ

リノ也。実に名高キキボウ峰有之也。南緯三十五度三十分東經二十一度三十九分。

同十三日 晴

昨日ク少弱風風向同断。南緯三拾五度二十六分東經二拾一度四分。

同十四日 晴

南緯三十五度拾一分東經拾九度三拾七分。朝洗身十二時比一間位魚数千斬大抵拾丁位、皆海中は魚計也。風向同断。

同十五日

南緯三拾五度拾九分東經拾八度四拾五分。風向微風舟不進十二時帆船一艘見五六里有之ラン歟。例之通旗ヲ揚英吉利支之舟也。

同十六日 晴

昨日入時分ヨリ風向違八時比ヨリ追風相成喜峯昼十二時通行臺燈相見得平安明益風能相成甚好順風也。南緯三十四度三分東經十六度二分。

同十七日 晴 sunday

同断順風能甚舟進也。昼過ヨリ帆船二艘見ユ、一艘八十里一艘八遠方夜入前二里位所ニミユ、夜中三艘追行拔ケ候由。南緯三十一度三十九分東經十一度五十七分。

同十八日 晴

昨日同断順風甚宜ク船隣行。南緯二十九度二十五分東經七度五十七

朝同断極々静浪無少風ビンタレ水ノ如シ。二時昼飯濟、歩行央船尻江一間位ノフカ魚相付舟將直ニ豚ノエトヲ以ツリ繩ヲ出シ候処、直ニ喰付水夫共五六人車ニ繩ヲカケ引揚暫ク甲板ニテ轉動ス。日入時分ヨリ雨風甚敷船瞬行舟中人々甚喜悅不斜。南緯十九度九分東經六十七度四十九分。

同二十三日 晴 *thursday*

昨夜大ニ風強帆散々ニ破レ浪ハ甲板ヲ浮流シ桶ニテ汲捨今朝同断、風浪甚烈敷甲板ハ扱置帆ケタニ浪カカル。其故吾々洗モ不調。十二時前帆船一見ユ、直ニ追付互ニ旗ヲ揚禮跡ニミル。南緯十九度五十分東六十四度二十二分。四時過ヨリカスカニ島見ユ。五時頃并合夜入不見得。

同廿三日 晴 *friday*

朝洗身東風ニテ追手船甚瞬行、昨日ヨリモ少浪弱。南緯二十度五十七分東六十度一分。

同二十四日 晴 *saturday*

朝潮ニテ沐浴風向同断船瞬行。南緯二十二度二十二分東五十六度十三分。

同二十五日 晴 *sunday*

朝潮ニテ灑身風向同船瞬行。肌物大抵九月比ナラン。南緯二十四度二十六分東五十二度五分。

同二十六日 晴 *monday*

朝潮身ヲ洗真追風。南緯二十六度七分東四十九度二十一分。

同二十七日 晴 *tuesday*

每朝行濟静浪無風船不進氣色甚惡敷。南緯二十七度十八分東經四十六度二十八分。

同二十八日 晴 *wednesday*

朝例之通身洗少風真追手。南緯二十八度十五分東經四十三度五十六分。

同二十九日 晴 *thursday*

朝如例洗身静浪微風。八時前帆船見ユ、四時ニ追付大抵二町位毛有之ラン歟。互ニ旗ヲ揚ケ禮ス、亜米利加ノ船也。臺灣ヨリ帰船也。南緯二十九度東經四十一度四十一分。日入ヨリ直ニ空曇風雨、暫時ノ間ニ晴ル。

七月朔日 晴 *friday*

朝如每洗身静浪微風至極ノ晴天。南緯。

同二日 晴 *saturday*

朝如例洗身静浪無風。南緯二十九度四十六分東三十九度十三分。

同三日 晴 *sunday*

南緯三十度五十八分東經三十七度十六分。昨夜ヨリ追風船進氣色甚能ク。

同四日 曇 *monday*

朝身洗微風静浪。南緯二十二度三十六分東經三十二度。

緯八度十二分、東百十七度。

同七日 晴 wednesday

朝島五六町ノ処通九時過ヨリ島通抜ケ大洋ニ出ル。順風モ甚宜ク舟最進行。南九度九分、東百十六度二十三分。

同八日 晴 thurs

順風甚宜追風ニテ舟進行。南緯十度四分東百十三度十一分。

同九日 晴 fri

昨日同断追風ニテ舟甚進行、朝塩^(潮)ニテ致洗。南緯十二度三十二分東經百十度十分。

同十日 晴 satur

同断追風浪大也。二時前荷蘭帆前船江行逢大抵十町位ナラン、互ニ旗ヲ揚ケ札ヲナス。三時過十里位ノ処へ帆船通最大也。南緯(欠字)東經百六度。

同十一日 曇 sunday

同断追風浪最大也。雨降。南十四度五十三分、東經百令度十八分。

同十二日 曇 monday

同断追風舟甚進。南緯線十五⁽⁴⁴⁾三十六分、東九十八度十分。

同十三日 晴 tuesday

同断舟進。南緯十六度東經九十三度。

同十四日 曇 wednesday

同断。南緯十六度五十五分東經九十度。

同十五日 晴 thursday

同断追風船瞬行朝潮ニテ洗ヲ成ス。満月明清潮光ヲ輝ス。皆甲板ニ出色々故郷ノ咄共イタス。南緯十六度四十六分東經八十六度三十九分。十時比部屋江入酒ヲ呑、吾鯉ヲ出皆喰ス。寢息ス。

同十六日 晴 friday

昨日同断追風十一時頃ヨリ十里位前へ見ユ、四時頃ニハ追付凡十町余ノ処ヨリ互ニ旗ヲ揚ク。彼ヨリ色々尋問有之度々旗ヲ揚ク。最荷蘭国船也。六時頃ニハ右舟不得見。南十七度五分東八十三度二十一分。

同十七日 朝雨 saturday

朝皆身躰ヲ洗後一緒ニ甲板鳥籠ノ上へ出煙草呑。浪風大ニシテ船甚動揺潮甲板江打入吾々乗居処ノ鹿籠洗流シ一統潮ニヌレ浪大ナルコト帆ケタニカカル。南緯十七度三十五分東經七十八度十三分。

同十八日 晴 sunday

朝身洗風并昨日同断少風弱ク。南緯十八度一分東七十四度五十九分。

同十九日 晴 monday

朝身洗静浪風弱。南緯十八度二十四分東經七十一度四十三分。

同二十日 晴 tuesday

朝身洗至極静浪少風船遅行。南緯十八度五十七分東六十八度五十三分。

同二十一日 晴 wednes

ノ方ニミユ。

同廿二日 雨 ウェンスレー 水

未明漸時ハ風雨甚強シ、九時比ヨリ小雨相成皆肌拔雨水ニテ洗ス、一時比ヨリ左ノ方江島見ユ、五時比ヨリ平海。

同廿三日 曇 ヘルスレー 木

朝無風四方ニ小島有之近キ所ハ纔ニ五町十町位モ有之ランカ四時比マテタレ浪ニテ甚舟不進也。三四町モ行クナラン、五時比ヨリ西南ノ方ヨリ風吹来リ其二雨ツケ舟行コト瞬息也。南。

同廿四日 曇半晴 ヘルスレー 金

順風平浪舟進行風西南ヨリ来ル。南五度二十分位東百。

同廿五日 晴 サアチルレー 土

昨日同断静浪乍然気分甚鬱シ勞レ候コト。三時比ヨリ雨降。南三度九分東百三十三度二十二分。

同廿六日 雨 ソンレー 日

雨降乍然順風甚宜敷追風ニテ舟行コト瞬息也。南一度十分東百二十五度。

同廿七日 曇 モンレー 月

昨日同断順風甚宜左ノ方江九時比ヨリ島見ユ、終日島内ヲ通三時比帆船一艘見ユ、英舟之由唐国ヘ行舟也。四時赤道ヲ越也。南 東百二十六度。

同廿八日 チュスレー 火 晴

静浪無風朝ヨリ島見ユ、暑キ強ク夜半迄甲板ニテ休ム。南一度二十五分、東経百二十五度位。

同廿九日 ウェンスレー 水

朝ヨリ島見ユ、向風ニテ終日マキリ走、舟甚不進雨時々降。南二度、東経百二十五度。

六月朔日 雨 ヘルスレー 木

朝雨降浪荒ラク舟ハ進ム也。島見ユ。南二度五十分、東百二十三度二十分。

六月二日 雨 フライレー 金 FRIDAY

南四度位東百二十三度。

雨降浪甚荒ラク朝ヨリ島見ユ、三時比ニハ一里内外ノ処通舟。

同三日 晴 サアチル 土 SATUR

三時比ヨリ平浪追風相成。朝ヨリ右ノ方ヘ大嶋日終見ユ、オランダ附国ノ内也。南五度三十五分、東百二十三分十五分。^(マ)

同四日 晴 ソンレー SUNDAY

平浪追風ニテ舟進行島左之方見ユ。

南緯五度四分東経線百二十度四十四分。

同五日 晴 MONDAY

朝小島右ノ方ヘ諸所見ユ。南緯五度十九分東経百十八度二十三分。

同六日 晴 TUESDAY

朝平浪船少行左ノ方島見ユ、Sumbawa 島名オランダ附国ノ内也。南

由雲ニテ不見得、日曜日ニテ舟中水夫迄舟頭初祭有之。

同六日 曇

今朝浪風荒ク終日看板ニハ塩越(潮)其丈ケ気分モ不宜。

同七日 朝曇

昨日ヨリモ少ハ風ヤハラキ乍然ナゴリ甚太ク昨日ヨリモ布テ不気分也。終日昨日同断ノ天気也。

同八日 曇

昨日よりも少風弱ク相成り順風不宜始終マキリ走ル也。晴夜ニテ看板江八時過迄出相嘶。

五月九日 晴

昨日同断マキリ走浪少ク相成順風甚能ク日入前ヨリ両方ニ小島見ユ。

同十日 晴

六時過起(ルソソ)ロゾント云イスバニヤ(イスバニヤ)ノ附国纔半里位ノ所通ル、人家不見得山繼也。今日モマキリ走日入過ヨリ雨風終日ロゾソノ内ヲ通ル。

同十一日 晴

朝霞ニテロゾソノ地方不見得、晴レ上リ候トキハ地方早行過、終日マキリ走。

同十二日 日曜日 晴 ソンレイ

朝至極平和浪風モナク夜中ヨリ雨降出シ風モ強ク相成ル。

同十三日 曇 月曜日 ムンレイ

順風宜シク三時比ヨリロゾソ見ユ、五時過ヨリ雨降出シ地方半道位

ニモ相成風雨甚シク直ニ向ヲ替エマギル、浪ハ看板ヲ越ユ、漸時甚烈シク日入時分ヨリ雨止風モ静ナル。

同十四日 雨 火 チースレイ

未明ヨリ風雨甚強ク浪ハ看板ヲ越ユ、其塩(潮)如川

同十五日 雨 水 ウェンスレー

昨日同断、風雨浪荒ラク帆(ニツ)甚行コト瞬息也。乍然マキリ走ニテ不埒明、日入前ヨリ雨止月出晴夜ニテ四ツ時分迄看板江出。

同十六日 雨 木 ヘルスレー

夜明ケヨリ浪風荒ラク昨日ヨリモ甚敷、浪舟ヲ越スコト四五間計。

同十七日 曇 金 フライレー

昨日ヨリ風モ弱キ朝ヨリミンドロロサニルラント云島終日見ユ。

同十八日 晴 土 サチーレイ

今朝島不見得帆前船一艘一里位所江見ユ、大キナル舟也。昼ヨリ島見ユ、小島数多有リ、至極平和ナル日也。

五月十九日 日曜日 曇

今朝遠方小島見ユ、終日島諸方江在、其内暗頼等モ有之也。

同廿日 晴 ムンレー 月

朝風無ク舟不進也。大小島諸所ニ有リ、イスバニヤノ内之由、人家有之所見ユ。

同廿一日 晴 チュスレー 火

朝嵐ニテ飢持モヨク舟モ少ツツハスム也。至極静浪六時比□島左

ル。八時ヨリ又来レリ、十一時迄相咄去ル。

同廿五日 晴

十時前々宇和嶋藩同道ロツク見物ニ行ク。ウワストン所江行案内ヲ頼、十二時帰ル。往来舟也、夜食後宇和嶋藩明日出帆ニ付、貴川、野奈江書状、萬国公法四冊、地球説畧一冊頼遣ス也。暫ク相咄帰ル。

四月廿六日

四時過ロビ子(ネ)ツト所江行(不明)出帆相成筈也。依テ色々相咄(不明)非上達イタシ可帰国(不明)世話イタシ候詮無之(不明)セシ也。暫ク相咄帰ル也。

同廿七日 晴

九時過ウワストン、ロビ子(ネ)ツト、ロビ子(ネ)ツト友人一人同道我宿ニ来リ、我々致同道本我国小蝶丸へ乗込ロビ子(ネ)ツト外二人別ル、然ル處本船一里計前淺瀬江乘掛碇泊、四時迄無食空腹甚シ。何分言語通意恨也。夜飯ニ燃牛、シャンパン甘キコト甚シクタトエルニ言バナシ。多人数乗込水夫大形支那人也。日本人ヨリ被使候コト甚嫌フ、故ヲ以考ルニ日本武不振ヲ思ヒシル一日モ早ク不問アラヌ 夜入八時(潮)塩来リ、舟浮漸ク出帆、本舟へ十一時至ル、本舟へ寄付方浪少有之甚六ヶ敷少ハ舟痛疵付候。何コトモナク直ニ乗移リ(快)試ヨク子(ネ)ル也。

同廿八日 曇

夜明前々出帆候。小蝶丸引舟ニテ行、夜十時迄引別ルル時ハ両方々関ノ声ヲ揚、三度ニテ別ルル也。其ヨリ帆ニテ走行也。

同廿九日 曇

十時前迄之間百五十里来ル由咄也。別テ順風宜ハイサント嶋昼時分ミユル。

五月朔日 曇

九時分ヨリラツチヨト云島見ユ、大低十里位モナガレ有之右島二三里前ニテ帆前舟帆二十三有リ、英吉利サンドロント云湊ヨリ出帆之舟也。上海江行クトノコト也。イツ出帆モ不相分、五時ヨリ雨風浪ユリ甚氣色悪敷。

五月二日 雨

昨日ヨリモ舟動キ甚シク残念、朝飯寢所ニテ茶飯カケヲ喰也。終日雨降風ナクナゴリフトク舟甚轉動セリ、依テ皆酔リ、昼過ヨリ少試(快)クナル、日入前帆舟三里位所江見ユ、全ク島等も不見得。

同三日 曇

朝嵐ニテ順風モヨク氣分も試(快)ク、二三里所江帆舟見ユ、二艘オランダ舟之由也。昨昼時分ヨリ三十里位四時迄之間来ル也。遙カニ島見ユ、上海ヨリ三百二十里来ル。

同四日 雨

九時過島見ユ、本地之由、次ニ都コ島ト云島有之由次テ琉球先キ島ノ内ナラン、別テ順風モ宜シク其丈ケ氣分モ相付也。夜入甚暑。

同五日 曇 日曜日

九時ヨリホールマサ日本ニテ臺灣ト云見ユ、嶽有リ七千フット有之

一 先日ロビ子(ネ)ツトヨリ大辱ヲ受タリ。其事件ハ我々亜米利加着之上者
彼ノ國名ニイタシ度、汝吾ニ変名ヲ可與ト云、(ロビネット)ロ云ソレハ甚タ不宜
何ツクノ国迄モ姓名ヲ変スルコト道理無之我雖有ト日本ニロビ子(ネ)ツ
ト云ドコカトコ迄モ本国ノ名ヲ以可通ト云。甚赤面セリ、我是ヲ不
思ニハアラスト雖未至誠之不貫徹故ナラン能々考合也。

同十八日 晴

一時過ヨリロビ子(ネ)ツト所江差越、留守故ニ其ヨリ英軍艦江行、トル
マンタ士官江見物イタシ度旨相通ス。不差支可乘石炭積入方ニテ甚
混雜然レトモ士官一人案内トシテ見物、大炮八挺位屹ト不相分、百
ホント其ル下酒可吞旨申聞候ヘトモ皆不快故相断帰宿、四時過ロビ
子(ネ)ツト所へ行咄居候處、英人コンシユル館ニテ調練有之トノコトニ
テ直ニ差越、最中練熟甚感心セリ、相濟帰宿也。夜食後遊歩。

四月十九日 晴

九時過ロビ子(ネ)ツト江行ク、銀錢拾枚受取暫時相嘶帰宿、夜食後遊歩。

同 廿日 晴 日曜日

十時前ヨリ遊歩、十時過帰宿、(種子島)登過吉田、(湯地)工藤遊歩有之處、舟々呼掛
兩人舟ニ乗ル日本人三人乗レリ。最ヲランダ舟宇和嶋藩一人ハ家老
ノ子、一人ハ士、一人ハガラハ部屋付ノ恒之助と云者也。兩人名萩
森敬助、大沼内蔵、右兩人江野村書状為相差由ニ而我々江持来セリ、
至極平和成リ、夜食後遊歩。昼前食所ニ出居候處、フランス人数人
来レリ、廿二歳拾九歳士官軍艦乗付之由、廿二人ハ少シ日本語相

分り色々相嘶ドルマンニモ来居彼レヨリ酒杯出ス。

同廿一日 晴

十時前ロビ子(ネ)ツト江行暫時相嘶、帰ニ昨日宇和嶋ノ舟江行、外出跡
空ク帰也。一時過食所ニ廿二ノフランス人来レリ、又彼レ々酒ヲ出
ス、色々一時半位相咄引取、夜食後遊歩。

四月廿二日 曇

十時ヨリオランダコンシユル内ニ宇和嶋藩所江行初テ面會半時迄相
嘶、帰ニ萩森致同道我宿江来レリ直ニ去ル。四月九日各國致航海度
者ハ主人ヨリ幕府江願出、幕府免印相渡其國々江持越旨相達有之候段
昨日新聞紙有之也。ウワストン昼過來レリ、ウワス云「ヲースタラ
イヤ」「プロイシ」戦争有之新聞紙見タトノ咄也。暫ク相咄去レリ、
夜食後遊歩。

同廿三日 曇

九時過ロビ子(ネ)ツト所江行、我々舟来ルナラン明後日乗船致セトノコ
ト也。舟名大ジヤシヨ帆前舟也。三時ヨリロビ子(ネ)ツト同道ニテ亜米
コンシユル館江行、コンシユル面會我米國江行ク彼国江書状ヲ呉レ
願フ。云フ吾ノ叔父シラルト云者也、當時アトミラルノ職分也、依
テ其次第言ヒ可書との事也。暫ク相咄帰宿夜食後遊歩。

同廿四日 晴

十二時過ヨリロビ子(ネ)ツト宿へ行色々相咄帰ニ舟中吞用酒并地半沓其
外取入方トシテ唐人店江行キ帰ル。五時比宇和嶋藩来レリ、直ニ去

同十日 晴

十時前々遊歩十時少過帰宿也。三時過ウワストーン、ドルマン我宿ニ来レリ。英国女王當年四拾歳彼國五月廿四日當レ誕生日依テ英人見物ニ行ク都テ軍粧服コンシユル館江屯集、其ヨリ行軍ニテ市中ニ空地ナル所アリ、兼テ祭ノ有ル所ナラン歟。各国旗立其ヨリ又行軍ニテ兼テ馬乗所大廣地有リ、其所ニテ調練有リ、大抵四百人位兵備ノ嚴整ナルコト考ヨリ甚充實有リ。嗚呼蕩々タル日本ノ武國ヲ以彼ニ不及コト慨歎不堪憤怒、幾年経彼ト時日ヲ同セシテ宇内ニ武勇ヲ輝サン。七時帰宿、夜食濟例之通遊歩。可憤可歎

四月十一日 曇

九時過ヨリドルマン案内ニテ亜米利加先度同様ナル川舟見物余程綺麗ニ有之也。□□ヲ計るものニ候。酒杯吞帰宿。

四月十二日 曇

十一時ヨリロビ子(ネ)ツト所江見舞其々我々便舟イタシ候舟江刀箱取ニ差越ドルマンニモ同道、舟将ヨリ昨朝長崎々舟着、其舟江薩摩ノ役人乗ルトノコト也。帰ニ至リ見ル、其人上陸不居帰宿、五時前ヨリロビ子(ネ)ツト、ウワストーン吾部屋ニ来レリ、其々致同道唐人館江馳走トシテ差越、唐人甚美麗也。喰物等ハ澤山数不知、遊女余多出位宜相見得其々舞始中々世話敷七時帰宿、夜食仕舞、ドルマン案内ガ(アラバ)ルハ部屋江参リ候処、弥薩人ニテ町人佐藤伊太郎ト云者来レリ。面會暫時嘶帰レリ。最早此位ノ国場□□同國之人ニ逢候事甚嬉敷有之候

也。

同十三日 雨 日曜日

一時過ヨリ我宿ニ佐藤来レリ、暫ク相嘶去レリ、ドルマン終日程来ル也。

四月十四日 半晴曇

昼食後ロビ子(ネ)ツト所江行、我々乗船ロンドン迄廿二三日方出帆ノ舟有之ト聞、四時比迄相嘶帰、ウワストーン我宿ニ来ル居ル、六時過迄相咄去レリ、夜食後遊歩。

同十五日 晴

九時過ウワストーン、ドルマン来レリ、十二時迄相嘶去レリ、一時過ヨリ佐藤来レリ、四時ヨリロビ子(ネ)ツト宿江致同道、暫ク相咄帰ル、夜後遊歩。

同十六日 晴

終日不快ニテ外出不致

同十七日 晴

昨日同断、少ハ快ク乍然ロビ子(ネ)ツトニモ世話ニ存ジ、フランス醫師相頼見候。夜食後遊歩。人数江、吉、吾。④(江夏蘇助(吉原))

⑤(種子島敬輔(湯地(アラバ))

一 種、湯ガラハ部屋ニ行ケリ、彼部ヤ付咄一昨日新聞蝦夷ニテ日本人トヲロシヤ人ト騒働ニ及ヒ候由、日本人六人死スト也。其上船ヲ燃タルトノ咄也。雖不詳実説ナランカ。

ツト我々所江参ル。暫時相嘸帰ル也。四字ヨリ亜ドルマン同道遊歩、唐人芝居有之見物、何モ不相面白モ無之故、直ニ引取雨降出帰ル也。同人江酒共出暫ク相嘸帰ル也。

同四日 雨晝ヨリ晴

十一字過(時)ヨリアシトン、ドルマン参。アシトンニハ十二字帰ル。トルマンニハ二字比込相嘸帰ル。四字過(時)ヨリトルマン参リ暫ク相嘸、其ハ同道イタシ市中遊歩イタシ六字過宿ヤ帰ル、夜食仕舞直ニ皆同道遊歩帰ル也。

同五日 晴

九字半ロビ子(不)ツト所江見舞直ニ帰、アシトン我宿江行ニ逢同行、ドルマンニモ又来レリ。十字前兩人吾五人△唐人圈内遊散場行、池有リ中ニ外ニ皆坐敷有余多之人酒ヲ飲或ハ術ヲ成ス。唐人館内甚穢匂甚甚悪敷一足ニテ走去ル、五字帰宿、右兩人モ来レリ、サンハン酒出飲、色々嘸六字過去レリ。

△書肆江行見物直ニ帰レリ、右兩人中途ヨリ別ルル、三字前トルマン来レリ、又アシトンニモ来レリ、前同断同道案内トシテ△

同六日 雨 日曜日

九字(時)ドルマン参リ阿米利加川舟昨夜着、舟主ヨリ我々見物ニ可参旨相傳候。直ニ差越見物、荷物四計樽位當分十七万挺今又其位ハ可積也。千人余乗組、十二字過(時)込相嘸酒馳走有之色々ノ嘸、亜米着ノ上ハ皆多ク参リ候ニ付能々入念付會可致、甚悪人有之也。教示甚親

切也。帰宿三字ロビ子(不)ツト所参、暫時相嘸帰宿也。八字少前夜喰仕舞遊歩、暫時イタシ帰宿、一剋ドルマン宿ニ立寄、イキリ亭主女有リ、タテゴト引、外四五人ノ内一人直ニ踊ヲナス、甚奇妙ナル哉、乍然初テ面白。

同七日 曇

八字半(時)ヨリアシトン并ドルマン我宿ニ来レリ。一統致同道書華堂江至レリ。亭主外出故ニ空シク帰レリ。アシトンニハ去レリ、ドルマンニハ我カ家ニ来レリ。吉原少不快外出不致、二時ウワストン、トルマン又来レリ、致同道我宿ヨリ一里半所へ英商石炭ニテ油ヲトル、其所ヨリ上海異館悉ク鐵道火ヲ燃ス、誠ニ氣械ノ業感心、追付横濱江造立致ス由嘸也。一日一萬七百土位出来之由、上海中四百株位、四時過帰宿、四時半致同船候英人外ニ友一人連我宿ニ来ル、暫ク相嘸六時去レリ。夜食濟例之通遊歩。

同八日 曇

朝食仕舞ロビ子(不)ツト所江見舞直帰宿、ドルマン来レリ、暫ク相嘸去ル、地半ニ枚洗方同人江頼、夜食濟例之通遊歩。

同九日 雨

十時ヨリ吉原ドルマン江同道ニテ仕建ヤ江差越、帽子并エリマキ取入、帰掛ロビ子(不)ツト所江立ヨリ留主故直ニ帰宿。一時ロビ子(不)ツト所江差越、御元出帆之有書狀頼入暫ク相嘸帰宿、夜食後例之通遊歩。

仁礼景範航米日記（その一）

三月廿六日 雨

一 長崎[□]終日雨夜七字打立、平運丸江乗付、八字ニホルトガル船乗付、ロビ子ツト乗付相成初而面會直ニ也。

同廿七日 雨

一 風雨ニ而終日滯舟

同廿八日 雨

一 朝日出比出帆、終日風雨ニ而浪ハ看板打越甚苦候也。

同廿九日 朝雨

一 九字比少し浪靜相成食事等も皆心よく進候也。四方霏ニ而何かし嶋も不相見得。

同晦日 晴

一 至極平和舟甚進候也、舟將妻十八九と相見得甚美人也。看板ニ而縫物共いたし中々不及所有之候也。日暮渡海其上雨降[□]碇泊。

四月朔日

一 少々雨降八字出帆、拾二字上海川口唐船何百艘ト云数不知、臺場

跡一里余初テ世界ノ大キ成ルヲ知ル。二字過上海各館有之處江着、ロビ子ツト先ニ陸江行、宿手當イタス也。迎ヒ參候ニ付上陸イタシ候處、ボリ宿ヤヲ忘レ甚混雜、諸方徘徊イタシ候處ニ船乗込之者共

江行逢、宿屋尋方相頼、日入時分宿屋江着休ム也。

同二日 晴

一 九字ニ朝飯仕舞直ニロビ子ツト宿江見舞直ニ歸リ、髮月代一統イタス也。ロビ子ツト朋輩我々共月代指南方トシテ參ル也。相濟暫ク相嘶歸ル也。二字過右同人外ニ一人我々便舟致シ候水夫同道、諸所見物舟造作場江參リ、亞米理幹川舟大抵四十間余有之ノニ乗舟、唐人異人皆旅込ヤミタヨウナモノニテ、別而美敷尤アメリカ人ニテ別テ丁寧酒杯至極睦敷様子也。其ヨリ唐製作所江行、機械感心、亞米理幹人唐人ヨリ被頼又ソコニテ酒杯出シ、甚ウレシク様子相見得、我々共子共ノ様相考見請残念也。其ヨリ歸ル中途ニ橋有之、イキリス人ヨリ橋錢ヲ可遣旨申聞候故、吾々一錢モ不持答へ候處、甚不承知ニテ中々通シ候勢ヒ無之、ソレナレハ明日可持越旨申聞候得共、其ニテモ不聞入候ニ付我時計ヲ出シ是ヲ可遣旨差出候處、其ニハ不及可通旨申聞候ニ付、是非時計ヲ可遣旨相達候得共、不請取故ソレナレハ明日可持越旨通ル也。日入時分宿ヤ江歸夜食仕舞、大抵二階下一階ニ三拾余人客人也。

同三日 晴

一 十字ヨリロビ子ツト江見舞銘々小仕用トシテ銀錢五枚ツツ相請取、夏着物作方イタシ候旨申聞候ニ付、其通手當相頼我々共直ニ差越尺取ル也。吾、湯地、同道昨日橋錢銀分一枚拂置直ニ歸ル也。是非跡少追錢可渡旨声掛候へトモ不顧其儘引取、一字少前歸宿、三字過ロビ子

人としての言動にもそうした様子が感じられる。第二点は、帰国後のほ

ぼ一カ月にわたる詳細な記述である。普通、こうした日記の類では、帰着の時点で筆を擱く場合が多いが、彼は筆を擱かずにそのまま続けて自らの行動を詳しく書き記していく。これは、維新の激動のさ中に帰国した留学生が、新政府の連中（かつての志士たち）にどのように迎えられ、また自身がそれにどのような対処していったかを知る上で極めて重要な証言となりうるのではなからうか。第三点は、記載期間の長さである。

約半年間のブランクを残して、慶応二年三月から明治元年十月までの二年間にわたる幕末留学日記が残っていること自体驚異である。諸藩留学生の日記では恐らく唯一のものであろう。

いずれにしてもこの日記は、幕末維新期の留学生の動向のみならず、近代日本文化の形成過程を究明する上で極めて貴重な史料である。最後に、日記の翻刻にあたって快く承諾下さった仁礼景信氏に、記して謝意を表したいと思う。

凡 例

- 一、今回の解読は、仁礼景信氏所蔵の日記原本により行った。
- 一、日記の体裁を考え、日付の位置などは、ある程度統一した。
- 一、日記中、適宜句点および読点を附し読み易くした。
- 一、仮名遣いは原本通りである。
- 一、字体については、旧字体、略字体、異体字、変体仮名などを通行文字に改めたところがある。
- 一、不明箇所は（不明）、欠字箇所は（欠字）、難読箇所は□を以てあらわした。
- 一、私注は（ ）を用い、字句について推定の場合は（：カ）の如く記した。

校モンソンアカデミーに入学して英語、歴史、地理等の普通学を学ぶことになる。二年間の留学生生活を了えて、明治元年（一八六八）九月四日モンソンを出発、サンフランシスコを経て十月二十八日横浜に帰り着いた。この間の詳しい動静については日記本文並びに拙稿「第二次薩摩藩米留學生覚え書」を参照されたい。

帰朝後、景範は新政府より知事就任への誘いをうけたらしいが、しばらくは官につかず帰郷していたようである。廃藩置県実施後の明治四年（一八七一）九月七日、兵部省六等出仕を命じられ、初めて明治政府に仕えることになる。同五年二月官制改革により兵部省が廃されると、改めて海軍省六等出仕に任じた。ただ注意すべきことは、景範は兵部省、

海軍省を通じて一貫して会計局勤務であり、営繕掛であったことである。これは、最初彼が武官としてではなく、經理総務担当の文官として採用されたことを意味するものであり、米留留学の経験が新政府が考慮した結果と見てよいであろう。景範はこれまで海軍軍人としての正規の教育は一度も受けていない。新政府が彼に期待したものは、恐らく留学で培われた近代的合理的な思考力であり、事務能力であったのではなからうか。彼が初めて軍艦に乗り組んだのは、明治六年（一八七三）十一月、支那海沿岸測量に向かう春日艦乗組を命じられた時であった。帰京直後の翌七年六月、海軍大佐に任じられた景範は、以後本格的に海軍軍人としての道を歩むことになる。その後の彼は薩摩閥を背景に順調な昇進を続け、明治十三年海軍少将、東海鎮守府司令長官、同十七年子爵を授けられ、

さらに翌年海軍中将に昇任されて海軍参謀本部長となった。明治二十五年八月、「蛮勇演説」で辞職した樺山資紀のあとを受けて、第二次伊藤内閣の海軍大臣に推されたが、在職半年にして西郷従道と交代辞任し、以後は枢密顧問官として余生を送った。明治三十三年（一九〇〇）十一月二十二日、三田綱町十番地の自邸で病のため没した。行年七十歳であった。景範は温厚実直な人柄で、朴訥、武人肌の男であったが、政治的な資質にはめぐまれず、才略的人物の多い薩摩閥にあつては異色の存在であった。明治海軍の基礎を確立した功は大きく、後年西郷従道、川村純義と共に海軍の三元勲と称せられた。

ここで、日記の内容について簡単に触れておきたい。簡潔な筆致で毎日の出来事を詳しく述べているが、客観的な記載が多く、感情の起伏とあったものはあまり見られない。景範の性格によるものである。ただ、二、三カ所、外国人に侮られたり、西洋文化、技術の優越性を見せつけられたりした時に、かつての攘夷派らしい悲憤慷慨の言葉が吐かれていく。西洋文明に接した時の体験、見聞、各方面の人物との出会い、勉学の様子等が日記の中心となっているが、注目すべき点が三つある。一つは、モンソン到着後、毎日曜日に教会に礼拝に通っていることである。景範は無論クリスチャンではない。彼は一時、トーマス・レイク・ハリスの「新生社」のメンバーにもなることから考えて、精神的にかなりキリスト教に接近した場所にいたのではなかつたらうか。帰国後の海軍軍

仁礼景範航米日記

犬塚 孝 明

解 題

『仁礼景範航米日記』について

この日記は、薩摩藩士仁礼景範が幕末に米国に密航留学した際の記録である。原本は名古屋市に在住の仁礼景信氏が所蔵しておられる。景信氏は景範の曾孫にあたられる方である。『仁礼景範航米日記』の表題は、筆者が便宜上付けたもので原本は無題である。

日記帳は全部で三冊あり、すべて手帳様のものである。第一冊目は、横八糎、縦十三糎ほどの大きさを黒表紙、無罫、六十三頁。出帆時の慶応二年（一八六六）三月二十六日から米国モンソン到着後の十二月二日まで八カ月にわたる日録である。鉛筆書きで一部墨筆。第二冊目は、横七糎、縦十五糎、Diary for 1867の印刷がある。スプリングフィールドで購入したもの。純然たる日記帳であるから日付、曜日は印刷してあり、淡青色横罫で、毎頁ごとにペン字細記が縦書でなされている。練習のつもりであろうか、一部に英文を使用しているのが興味をひく。記載期間は慶応二年十一月二十六日（旧暦）から一八六七年十二月十七日までの約一年間である。第三冊目は、横八糎、縦十二糎、黒表紙で緑色の締めひもが

ついている。毎頁に淡青色横罫が印刷され、裏表紙に JOHNSON & ROWE'S METALLIC MEMORANDUM BOOKS, LONDON 1862 の印刷がある。一八六八年七月二十四日から同三十一日までの一週間のボストン旅行日記、及び九月四日モンソン出発から帰国後の旧暦十月七日（新暦十一月二十日）に至るまで二カ月半の日録がいずれも鉛筆書きで記されている。

筆者の仁礼景範は、薩摩藩士仁礼源之進の次男として、天保二年（一八三一）二月二十四日、鹿児島城下荒田町に生まれた。松方正義、税所篤等と同じ方限に属し、お互いに切磋琢磨し合って幼少時代を過したという。平輔と称し、叔父仁礼吉右衛門の養子となり分家を継いだ。安政年中には大久保利通、伊地知正治、有馬新七等四十余名と共に精忠組を結成し、尊王攘夷運動に挺身した。文久三年（一八六三）六月、薩英戦争の際、攘夷派七十七名の決死隊の一人として英艦乗取り作戦に参加するも失敗。戦後長崎に遊学し英学の研鑽を重ねるうち、米国オランダ改革派宣教師フルベッキやその他貿易商人たちとも親しくなったものと思われる。慶応二年（一八六六）初めの頃、第一次の英国留学生について、第二次の留学生派遣の議が興ると、景範はその選に入り、吉原重俊、湯地定基、江夏蘇助、種子島敬輔等四人と共に米国行きを命じられた。慶応二年三月二十六日長崎を出帆し、英国経由で同年九月二十七日ニューヨークに到着、さらにボストンからモンソンに向かい、同地の私立学